

4月から5月にかけて、
この町を新緑に輝かせた「茶時」。
摘採の最盛期から1カ月が経過した今号では、
今年の新茶シーズンの様子を振り返るとともに、
川根茶の振興に向けた取り組みについて紹介します。

【特集】ことしの 「川根茶」

「天空の茶園」(久保尾区)

献茶式

川根茶のさらなる発展を祈願



4月15日、町茶業振興協議会
(会長・鈴木敏夫町長)主催の献
茶式が、フォーレなかかわね茶
茗館にて挙行されました。

式典には、生産者や茶商など
茶業関係者を中心に約80人が出
席しました。祭壇に設けられた
「川根茶魂」の木碑に新茶を献上
し、本格的な新茶シーズンの到
来を前に、川根茶のさらなる発
展を祈念しました。

出席者を代表して献上茶を祭
壇にささげた鈴木町長は「長い
歴史と伝統を持った川根茶の振
興のため、名産地としての誇り
を胸に、引き続き関係者一丸と
なって取り組んでいきたい」と
あいさつし、今後の茶業発展へ
の決意を新たにしました。



▲献上茶は、前日に町農林業センターにて摘採
され、県茶手揉保存会川根支部の皆さんの手
で針のように仕上げられました。



新茶初取引

手合わせの音が告げる
新茶シーズンの到来



初日は5口・27^キが上場しました。

初取引に先立ち今シーズンの活発な取引を祈願した開所式が行われ、同協議会の太田起博会長が「常に情報を集め、この時期から来年の戦略を練っていく姿勢も、これからは必要になるはず」と生産者に呼び掛けました。続いて行われた取引では、買い手が新茶の香りや色合いを慎重に見定めると、そろばんを持った仲介人が生産者との間に入り交渉が始まりました。商談が成立すると、会場には威勢の良い手合わせの音が響き渡りました。初日は、いずれも1^キあたりで最高値が3万8千円、平均価格が1万6千509円でした。



4月28日、JA大井川中川根支店にて、川根地域茶業安定協議会主催による新茶初取引が行われ、生産者や茶商ら約100人が商談に臨みました。

全国茶品評会 出品茶摘採

茶産地としての誇りを胸に
「オール川根本町」で摘採

第71回全国茶品評会

【開催地】長崎県内

【審査結果発表】9月8日

▼町内からの出品者(敬称略)

【普通煎茶4^キの部】

- ◎相藤農園(相藤直紀)
- ◎相藤園(相藤令治)
- ◎川崎好和
- ◎つちや農園(土屋 鉄郎)

【普通煎茶10^キの部】

- ◎丹野園(丹野浩之)

【釜炒り茶の部】

- ◎瀬沢製茶共同組合(組合長 瀧尾輝久)



摘採しながら出来栄えを確かめる相藤園の相藤令治さん(右)。

4年ぶりの産地賞獲得を目指し、5月3日から町内各地で、全国茶品評会に出品される茶葉の摘採と製造が行われました。それぞれの茶園で丹精込めて育てられた出品茶は、町民ボランティアや関係者などの「お茶摘みさん」の手によって、「一芯二葉」でいいねいに摘み取られました。「この地域特有の寒暖差のおかげで、川根茶らしい香り豊かな茶葉に育ってくれた」と、ある出品者は出来栄えに自信を込めて話し、町勢の上位入賞が期待されます。摘採された茶葉は町農林業センターや出品者の茶工場に次々と搬入され、仕上げの工程へと移っていきましました。